

# 調査結果の概要

## I 発育状態

### 1 平均体格 (表1、図1、別表1参照)

平成26年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

#### (1) 各年齢間の体格差

##### ① 身長

男子は、11歳と12歳の間が8.0cmと最も大きく、16歳と17歳の間が1.1cmと最も小さい。女子は、8歳と9歳及び10歳と11歳の間が6.9cmと最も大きく、14歳と15歳の間が0.2cmと最も小さい。

##### ② 体重

男子は、11歳と12歳の間が5.8kgと最も大きく、6歳と7歳の間が2.1kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が4.8kgと最も大きく、15歳と16歳の間が0.1kgと最も小さい。

##### ③ 座高

男子は、11歳と12歳の間が3.9cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.9cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が3.6cmと最も大きく、16歳と17歳が0.0cmと最も小さい。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	5歳	110.7	109.7	1.0	18.9	18.3	0.6	61.7	61.4	0.3
小学校	6歳	116.8	115.8	1.0	21.7	21.0	0.7	65.2	64.8	0.4
	7歳	122.7	121.3	1.4	23.8	23.5	0.3	67.7	67.4	0.3
	8歳	128.4	127.6	0.8	27.1	26.5	0.6	70.4	70.1	0.3
	9歳	134.0	134.5	△0.5	30.5	30.6	△0.1	73.0	73.3	△0.3
	10歳	139.4	140.6	△1.2	34.3	34.4	△0.1	75.3	76.1	△0.8
	11歳	145.5	147.5	△2.0	38.5	39.2	△0.7	78.0	79.7	△1.7
中学校	12歳	153.5	152.0	1.5	44.3	43.2	1.1	81.9	82.4	△0.5
	13歳	160.3	155.0	5.3	48.9	47.0	1.9	85.4	84.0	1.4
	14歳	165.8	157.1	8.7	54.6	50.1	4.5	88.6	85.3	3.3
高等学校	15歳	168.9	157.3	11.6	58.9	51.9	7.0	90.7	85.7	5.0
	16歳	170.6	158.0	12.6	61.1	52.0	9.1	91.6	85.9	5.7
	17歳	171.7	158.4	13.3	63.5	52.7	10.8	92.6	85.9	6.7

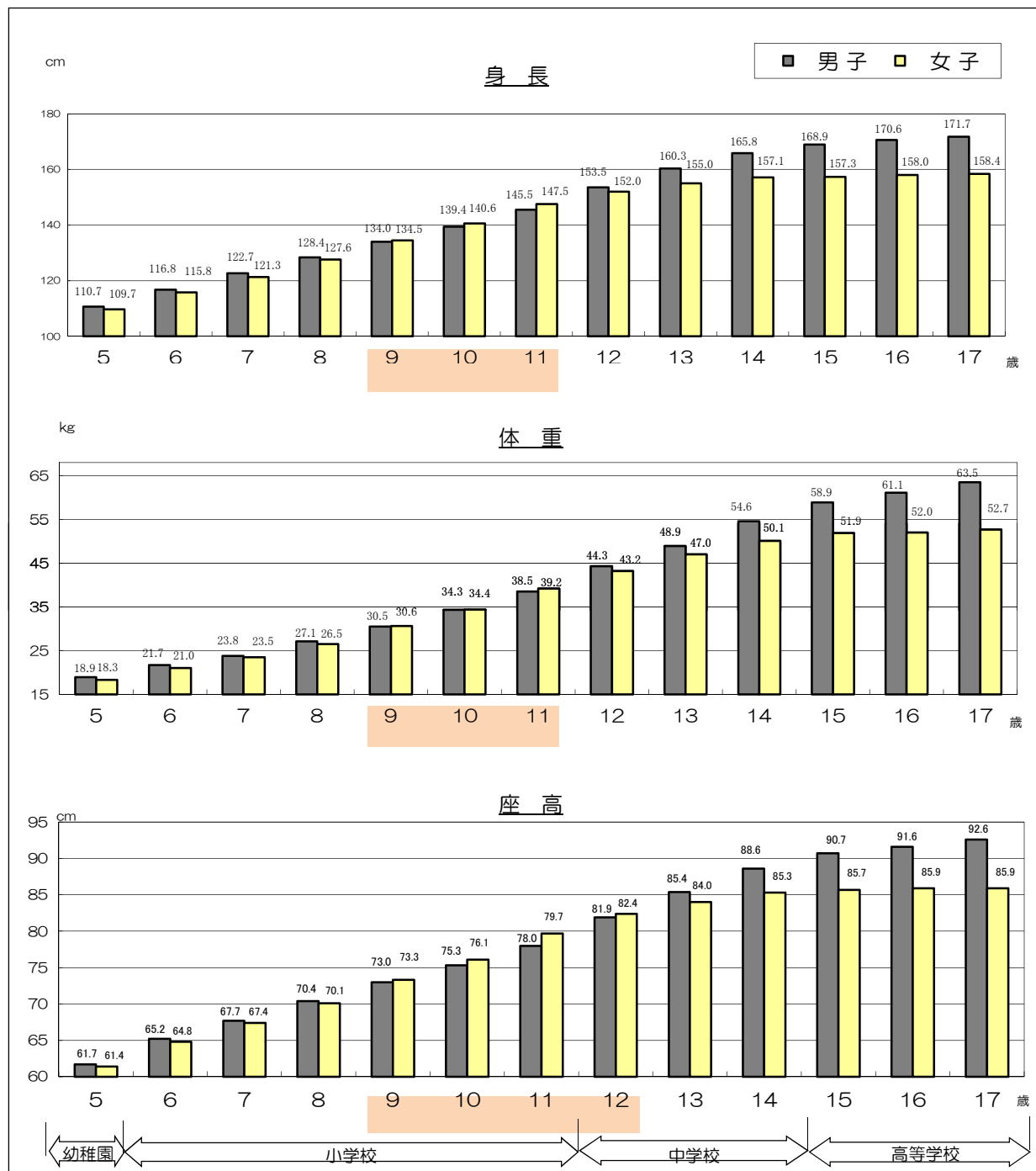
(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(注)2 網掛けの部分は、調査実施以来最高を示す。

## (2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長・体重では9歳～11歳、座高では9歳～12歳で、その差の最大は、身長では11歳の2.0cm、体重では11歳の0.7kg、座高では11歳の1.7cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.3cm、体重10.8kg、座高6.7cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



## 2 30年前（昭和59年度）の体格との比較（表2、別表2参照）

平成26年度と30年前の昭和59年度の体格を比較してみると、男子は5歳と6歳の身長、5歳と7歳の体重、5歳から8歳までの座高、女子は、5歳から7歳までと13歳15歳の身長、5歳と12歳から17歳までの体重、5歳から8歳までと15歳の座高を除くすべてにおいて向上している。

### (1) 17歳（高校3年生）の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.7cm高く、体重が1.4kg多く、座高が

1.1cm高くなっている。女子は身長が0.4cm高く、体重が0.5kg少なく、座高が0.2cm高くなっている。

### (2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長・体重・座高とも12歳となっている。女子は身長・体重が9歳、座高は9歳及び11歳となっている。

表2 30年前の体格との比較

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)				
	平成 26年度	昭 和 59年度	差	平成 26年度	昭 和 59年度	差	平成 26年度	昭 和 59年度	差		
男 子	幼稚園	5歳	110.7	111.2	△0.5	18.9	19.2	△0.3	61.7	62.5	△0.8
	小 学 校	6歳	116.8	116.9	△0.1	21.7	21.4	0.3	65.2	65.5	△0.3
		7歳	122.7	122.6	0.1	23.8	24.0	△0.2	67.7	68.1	△0.4
		8歳	128.4	127.9	0.5	27.1	26.4	0.7	70.4	70.5	△0.1
		9歳	134.0	133.0	1.0	30.5	29.6	0.9	73.0	72.6	0.4
		10歳	139.4	138.2	1.2	34.3	33.2	1.1	75.3	74.8	0.5
		11歳	145.5	143.9	1.6	38.5	37.1	1.4	78.0	77.3	0.7
	中 学 校	12歳	153.5	150.9	2.6	44.3	42.0	2.3	81.9	80.7	1.2
		13歳	160.3	158.1	2.2	48.9	47.3	1.6	85.4	84.3	1.1
		14歳	165.8	164.2	1.6	54.6	53.3	1.3	88.6	87.5	1.1
	高 等 学 校	15歳	168.9	168.8	0.1	58.9	58.6	0.3	90.7	90.1	0.6
		16歳	170.6	170.4	0.2	61.1	61.0	0.1	91.6	91.1	0.5
		17歳	171.7	171.0	0.7	63.5	62.1	1.4	92.6	91.5	1.1
	女 子	幼稚園	5歳	109.7	110.4	△0.7	18.3	18.9	△0.6	61.4	62.1
小 学 校		6歳	115.8	116.1	△0.3	21.0	20.8	0.2	64.8	65.0	△0.2
		7歳	121.3	121.9	△0.6	23.5	23.3	0.2	67.4	67.6	△0.2
		8歳	127.6	127.6	-	26.5	26.2	0.3	70.1	70.3	△0.2
		9歳	134.5	133.1	1.4	30.6	29.1	1.5	73.3	72.6	0.7
		10歳	140.6	139.4	1.2	34.4	33.4	1.0	76.1	75.6	0.5
		11歳	147.5	146.4	1.1	39.2	38.3	0.9	79.7	79.0	0.7
中 学 校		12歳	152.0	151.5	0.5	43.2	43.5	△0.3	82.4	82.2	0.2
		13歳	155.0	155.3	△0.3	47.0	47.3	△0.3	84.0	84.0	-
		14歳	157.1	156.9	0.2	50.1	50.2	△0.1	85.3	85.0	0.3
高 等 学 校		15歳	157.3	157.6	△0.3	51.9	52.8	△0.9	85.7	85.8	△0.1
		16歳	158.0	157.7	0.3	52.0	53.0	△1.0	85.9	85.5	0.4
		17歳	158.4	158.0	0.4	52.7	53.2	△0.5	85.9	85.7	0.2

3 30年前（昭和59年度）の発育量との比較 （表3、図2、別表5参照）

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳（平成8年度生まれ）と30年前調査の17歳（昭和41年度生まれ）を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳（平成8年度生まれ）の総発育量を30年前と比較すると、身長では、男子0.5cm減、女子0.4cm減、体重では、男子1.0kg増、女子0.8kg減、座高では、男子1.0cm増、女子も0.3cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳（平成8年度生まれ）の年間発育量をみると、男子は、身長・体重・座高とも12歳時が最も大きく、女子は、身長・座高は9歳時、体重は9歳・11歳時が最も大きい。

一方、30年前の17歳（昭和41年度生まれ）の年間発育量は、男子は身長・座高は12歳時、体重は13歳時が最も大きく、女子は身長は9歳時、体重・座高は10歳時が最も大きい。

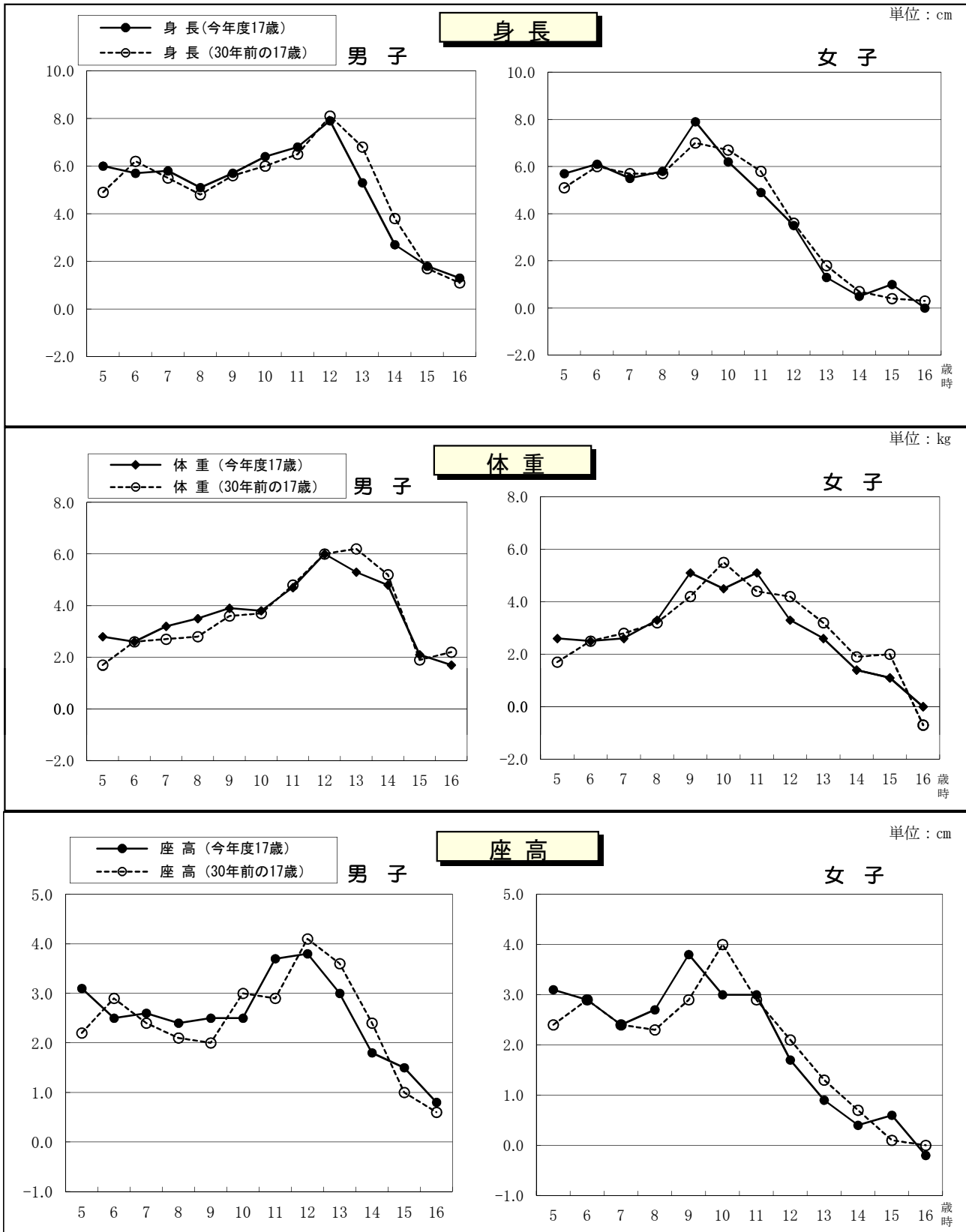
表3 年次別、男女別、発育量の比較

区 分	男 子				女 子				
	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和 41年度生まれ	110.0	171.0	61.0	12歳時	109.2	158.0	48.8	9歳時
	51	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.2	158.3	48.1	9歳時
	61	110.9	171.6	60.7	12歳時	109.9	158.6	48.7	9歳時
	平成 3	111.0	171.2	60.2	12歳時	110.0	158.3	48.3	10歳時
	8	111.2	171.7	60.5	12歳時	110.0	158.4	48.4	9歳時
体重 kg	昭和 41年度生まれ	18.7	62.1	43.4	13歳時	18.3	53.2	34.9	10歳時
	51	19.0	62.8	43.8	13歳時	18.7	53.5	34.8	11歳時
	61	19.1	64.9	45.8	14歳時	18.8	53.8	35.0	11歳時
	平成 3	19.2	62.9	43.7	14歳時	18.9	53.4	34.5	10歳時
	8	19.1	63.5	44.4	12歳時	18.6	52.7	34.1	9歳・10歳時
座高 cm	昭和 41年度生まれ	62.3	91.5	29.2	12歳時	61.7	85.7	24.0	10歳時
	51	62.4	91.7	29.3	13歳時	62.0	86.0	24.0	10歳時
	61	62.1	92.3	30.2	11歳時	61.8	85.8	24.0	5歳・9歳・11歳時
	平成 3	61.8	92.0	30.2	12歳時	61.2	85.8	24.6	5歳時
	8	62.4	92.6	30.2	12歳時	61.6	85.9	24.3	9歳時

(注)1 総発育量とは、例えば昭和41年度生まれの総発育量は、昭和41年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「昭和41年度生まれ」とは、昭和41年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成8年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成15年度調査6歳の者の体位から平成14年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

## II 健康状態

### 1 疾病・異常被患率の状況(表4、別表3参照)

平成26年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、「むし歯(う歯)〈処置完了者＋未処置歯のある者〉」では幼稚園、小学校で第1位、中学校、高等学校で第2位を占め、被患率は幼稚園28.1%、小学校51.9%、中学校49.6%、高等学校53.0%と他の疾病等に比較して高くなっている。

「裸眼視力1.0未満」では、中学校、高等学校で第1位を占め、小学校でも第2位と高く、被患率も小学校30.0%、中学校58.9%、高等学校71.7%と高くなっている。

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	28.1	むし歯(う歯)	51.9	裸眼視力1.0未満	58.9	裸眼視力1.0未満	71.7
2	歯列・咬合	3.4	裸眼視力1.0未満	30.0	むし歯(う歯)	49.6	むし歯(う歯)	53.0
3	アトピー性皮膚炎	3.3	鼻・副鼻腔疾患	6.5	歯垢の状態	6.5	歯垢の状態	7.5
4	眼の疾病・異常	2.3	その他の歯の疾病・異常	6.1	歯肉の状態	6.3	鼻・副鼻腔疾患	5.8
5	耳疾患	1.7	歯列・咬合	3.2	眼の疾病・異常	5.5	歯肉の状態	4.8

### 2 主な疾病・異常被患率の推移(別表3・4参照)

#### (1) 栄養状態

平成26年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、小学校が0.6%、中学校が0.2%、高等学校が0.3%となっている。

#### (2) 鼻・副鼻腔疾患

平成26年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が1.0%、小学校が6.5%、中学校が5.2%、高等学校が5.8%となっており、幼稚園、小学校、中学校では前年度より上昇している。

#### (3) 寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成26年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が皆無、小学校が0.4%となっており、前年度と比べると、小学校で上昇している。

#### (4) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成26年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校(6歳)が2.8%、中学校(12歳)が4.2%、高等学校(15歳)が2.9%となっており、前年度と比べると小学校、中学校で上昇している。

#### (5) ぜん息

平成26年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が1.2%、小学校が2.0%、中学校が1.4%、高等学校が0.9%となっており、前年度と比べると幼稚園で上昇しており、小学校、中学校では低下している。

(6) むし歯(う歯) (表5・図3・別表3参照)

「むし歯(う歯)」の被患率について過去の推移をみると、各学校種において多少の増減はあるものの全体として減少傾向にある。

また、平成26年度の被患率を平成17年度と比べると、幼稚園で30.76ポイント、小学校で21.56ポイント、中学校で19.57ポイント、高等学校で20.99ポイント減少している。

また、12歳の永久歯の1人当たりう歯等数は1.3本となり前年度と同数である。

表5 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移

単位:%

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
幼稚園	計	58.86	53.20	52.30	45.8	48.5	x	38.20	35.9	32.4	28.1
	処置完了者	24.49	20.41	20.40	17.8	17.2	x	12.70	13.2	8.9	11.4
	未処置歯のある者	34.37	32.79	31.90	28.0	31.3	x	25.50	22.8	23.4	16.8
小学校	計	73.46	71.52	67.40	65.3	66.0	61.3	62.9	57.5	54.1	51.9
	処置完了者	32.78	30.86	30.00	28.4	29.8	26.3	27.0	25.4	23.8	22.0
	未処置歯のある者	40.67	40.66	37.50	36.9	36.2	34.9	35.9	32.1	30.4	29.9
中学校	計	69.17	66.66	64.00	64.6	58.8	55.7	58.5	52.8	52.4	49.6
	処置完了者	37.98	34.88	34.10	37.5	33.7	30.0	32.2	28.0	27.3	26.8
	未処置歯のある者	31.19	31.77	29.90	27.1	25.2	25.8	26.3	24.7	25.0	22.8
高等学校	計	73.99	71.17	73.40	72.6	69.1	62.2	62.1	57.1	59.4	53.0
	処置完了者	43.53	38.19	41.70	38.8	37.3	34.2	35.8	29.8	34.9	29.4
	未処置歯のある者	30.46	32.98	31.70	33.8	31.8	28.0	26.3	27.3	24.5	23.6

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

(7) 裸眼視力(表6参照)

「裸眼視力1.0未満」の被患率について過去の推移をみると、各学校種別においてそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成26年度の被患率を平成17年度と比べると、小学校で1.5ポイント、中学校で2.8ポイント、高等学校で7.6ポイント上昇している。なお、幼稚園の今年度の被患率は公表されていない。

表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位:%

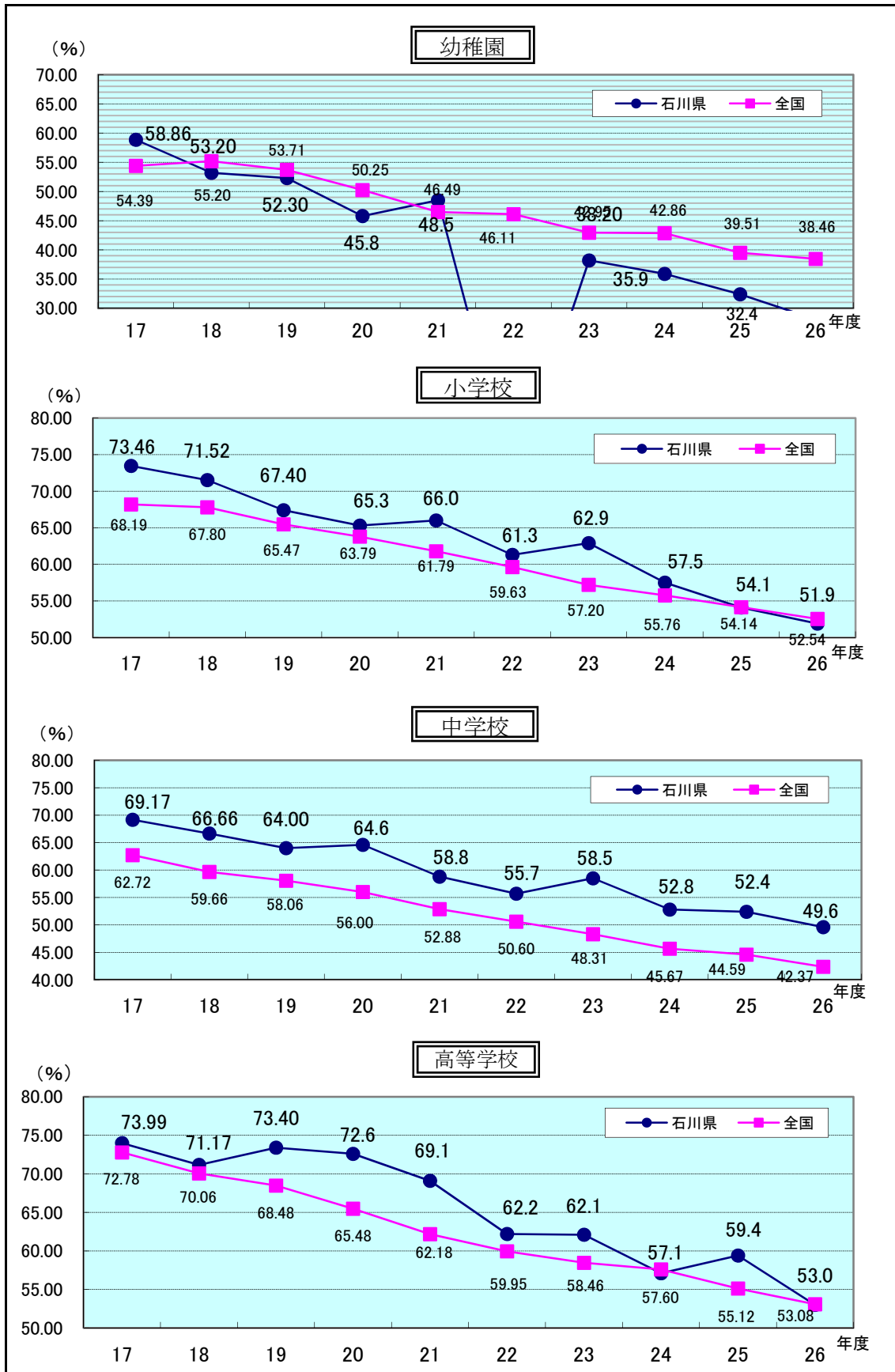
区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
幼稚園	計	10.65	x	15.30	11.7	x	x	x	x	x	
	1.0未満0.7以上	6.63	x	10.80	8.6	x	x	x	x	x	
	0.7未満0.3以上	3.65	x	4.20	2.4	x	x	x	x	x	
	0.3未満	0.37	x	0.30	0.6	x	x	x	x	x	
小学校	計	28.49	29.45	29.20	32.4	31.0	31.7	31.7	31.0	31.5	30.0
	1.0未満0.7以上	10.79	10.89	9.70	11.7	9.3	10.1	10.8	10.0	10.5	9.7
	0.7未満0.3以上	11.65	12.28	12.50	12.9	11.9	11.9	12.1	12.1	12.8	12.0
	0.3未満	6.05	6.29	7.00	7.8	9.8	9.8	8.9	8.9	8.3	8.3
中学校	計	56.11	51.41	58.90	57.5	59.0	61.3	60.7	56.5	58.6	58.9
	1.0未満0.7以上	10.28	7.14	10.50	10.7	10.1	11.5	11.0	8.0	10.2	10.2
	0.7未満0.3以上	18.61	20.09	22.20	18.3	21.5	19.9	18.4	16.6	18.1	19.7
	0.3未満	27.22	24.18	26.20	28.4	27.5	29.9	31.2	31.8	30.4	29.0
高等学校	計	64.07	x	61.00	65.3	68.9	x	74.40	x	x	71.7
	1.0未満0.7以上	19.18	x	8.00	9.6	9.5	x	9.40	x	x	7.9
	0.7未満0.3以上	16.58	x	14.60	17.1	15.2	x	12.90	x	x	13.6
	0.3未満	28.31	x	38.50	38.6	44.2	x	52.10	x	x	50.2

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

図3 むし歯(う歯)の被患率の推移





### Ⅲ 全国値との比較

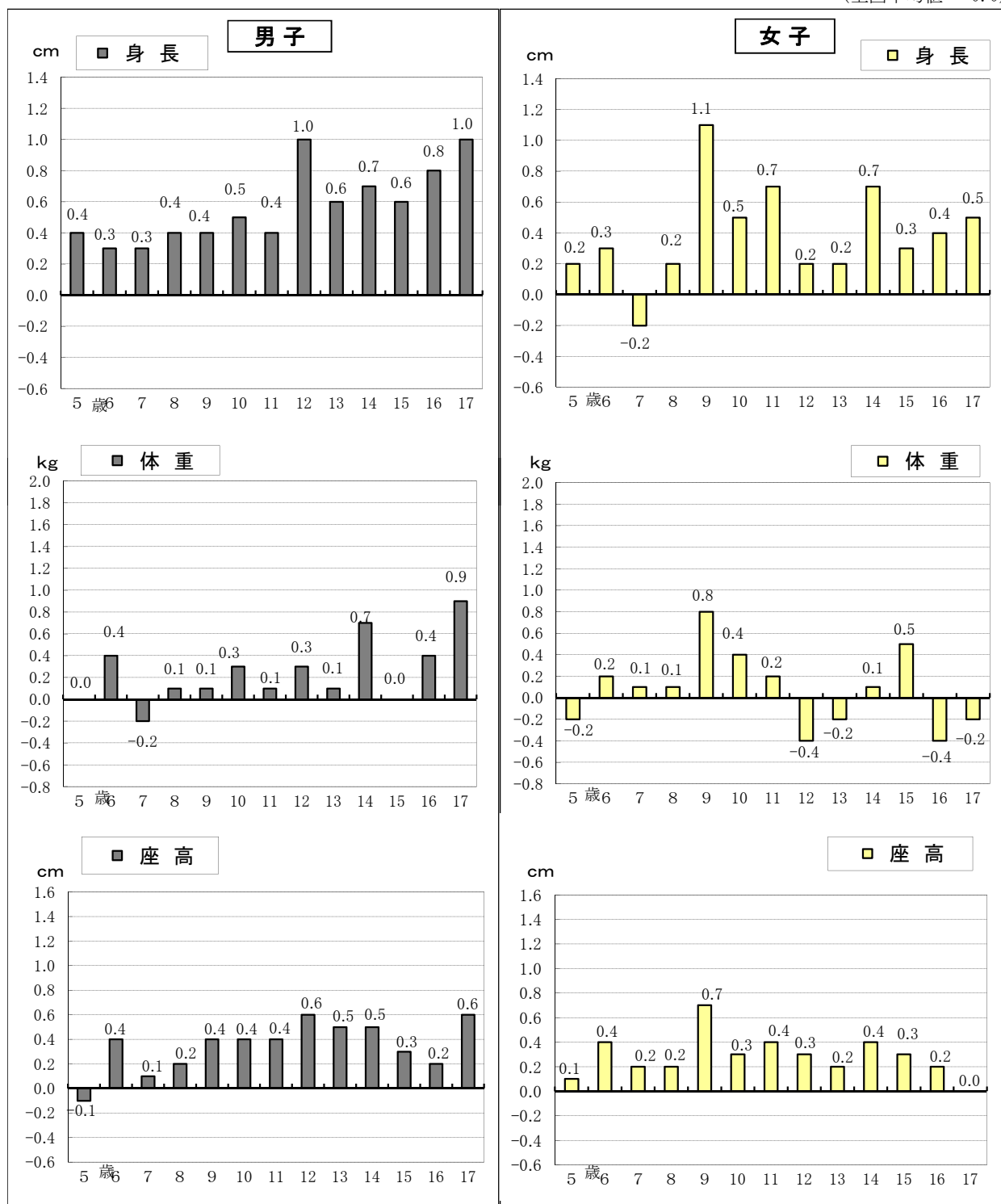
#### 1 発育状態

##### (1) 全国平均体格との差 (図4、別表1参照)

身長では、男子・女子ともに女子の7歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。体重では、男子の7歳、女子の5歳・12歳・13歳・16歳・17歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。座高においては男子・女子ともに男子の5歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。

図4 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7、別表5参照)

17歳(平成8年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は身長0.6cm、体重は1.0kg、座高は0.3cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.5cm、体重は0.1kg、座高は0.1cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区 分		男 子 (平成8年度生まれ)			女 子 (平成8年度生まれ)		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A
身長 cm	石川県	111.2	171.7	60.5	110.0	158.4	48.4
	全 国	110.8	170.7	59.9	110.0	157.9	47.9
体重 kg	石川県	19.1	63.5	44.4	18.6	52.7	34.1
	全 国	19.2	62.6	43.4	18.9	52.9	34.0
座高 cm	石川県	62.4	92.6	30.2	61.6	85.9	24.3
	全 国	62.1	92.0	29.9	61.7	85.9	24.2

(3) 17歳(高校3年生)の身長全国平均値との比較 (図7、図8参照)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表8参照)

平成26年度の肥満傾向児の出現率は男子では11歳の11.45%、女子では15歳の11.27%が最も高く、反対に男子では5歳の1.88%、女子も5歳の2.78%が最も低い。また、全国平均と比べると、男子は6歳・11歳において、女子は5歳・7歳・9歳・15歳において上回っている。

表8 男女別、年齢別、肥満傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小 学 校						中 学 校			高 等 学 校			
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	2.34	5.05	5.19	5.12	7.03	7.58	9.34	6.65	7.38	7.35	9.41	6.95	7.18
	全 国	2.62	4.25	5.43	6.92	8.14	9.07	9.44	9.38	8.42	7.93	9.90	8.81	9.48
男	石川県	1.88	6.38	3.60	4.97	5.68	7.53	11.45	7.79	6.97	7.45	7.66	8.53	7.94
	全 国	2.55	4.34	5.45	7.57	8.89	9.72	10.28	10.72	8.94	8.16	11.42	10.16	10.69
女	石川県	2.78	3.67	6.81	5.28	8.38	7.63	7.14	5.45	7.81	7.25	11.27	5.34	6.44
	全 国	2.69	4.15	5.41	6.24	7.36	8.40	8.56	7.97	7.89	7.68	8.35	7.44	8.25

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表9参照)

平成26年度の痩身傾向児の出現率は男子では10歳の3.47%、女子では12歳の4.14%が最も高く、反対に、女子では6歳が皆無となっている。

また、全国平均と比べると、男子では5歳・6歳・8歳・9歳・10歳・12歳、女子では5歳・10歳・11歳・14歳・15歳・16歳・17歳が全国平均値を上回っている。

表9 男女別、年齢別、痩身傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	0.58	0.32	0.28	1.10	1.90	3.63	2.66	3.54	2.46	2.34	2.67	2.03	1.38
	全国	0.36	0.52	0.62	1.04	1.92	2.68	3.05	3.45	2.61	2.15	2.60	2.02	1.84
男	石川県	0.58	0.63	0.21	1.43	1.91	3.47	2.00	2.97	1.58	1.48	2.36	1.60	0.90
	全国	0.34	0.41	0.50	0.98	1.79	2.85	3.24	2.77	1.75	1.79	2.66	2.19	1.99
女	石川県	0.58	-	0.34	0.74	1.88	3.80	3.35	4.14	3.37	3.25	3.01	2.46	1.85
	全国	0.39	0.64	0.75	1.10	2.06	2.50	2.86	4.17	3.52	2.52	2.53	1.85	1.69

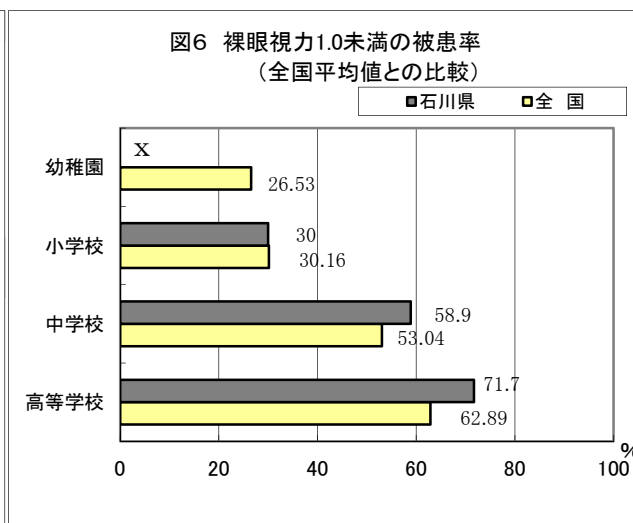
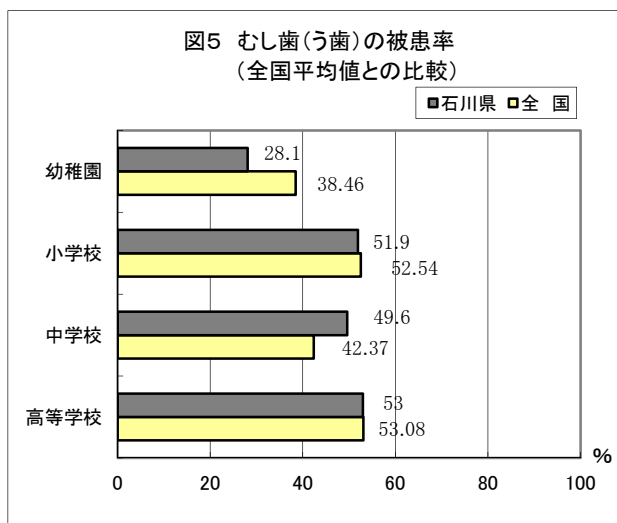
(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

2 健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較(図5・6、別表3参照)

「むし歯(う歯)」の被患率は、中学校では7.23ポイント上回っているが、幼稚園が10.36ポイント、小学校が0.64ポイント、高等学校が0.08ポイント全国平均値を下回っている。

「裸眼視力1.0未満」の被患率では、中学校が5.86ポイント、高等学校が8.81ポイント全国平均値を上回っている。



(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。

図7 17歳男女平均値の推移

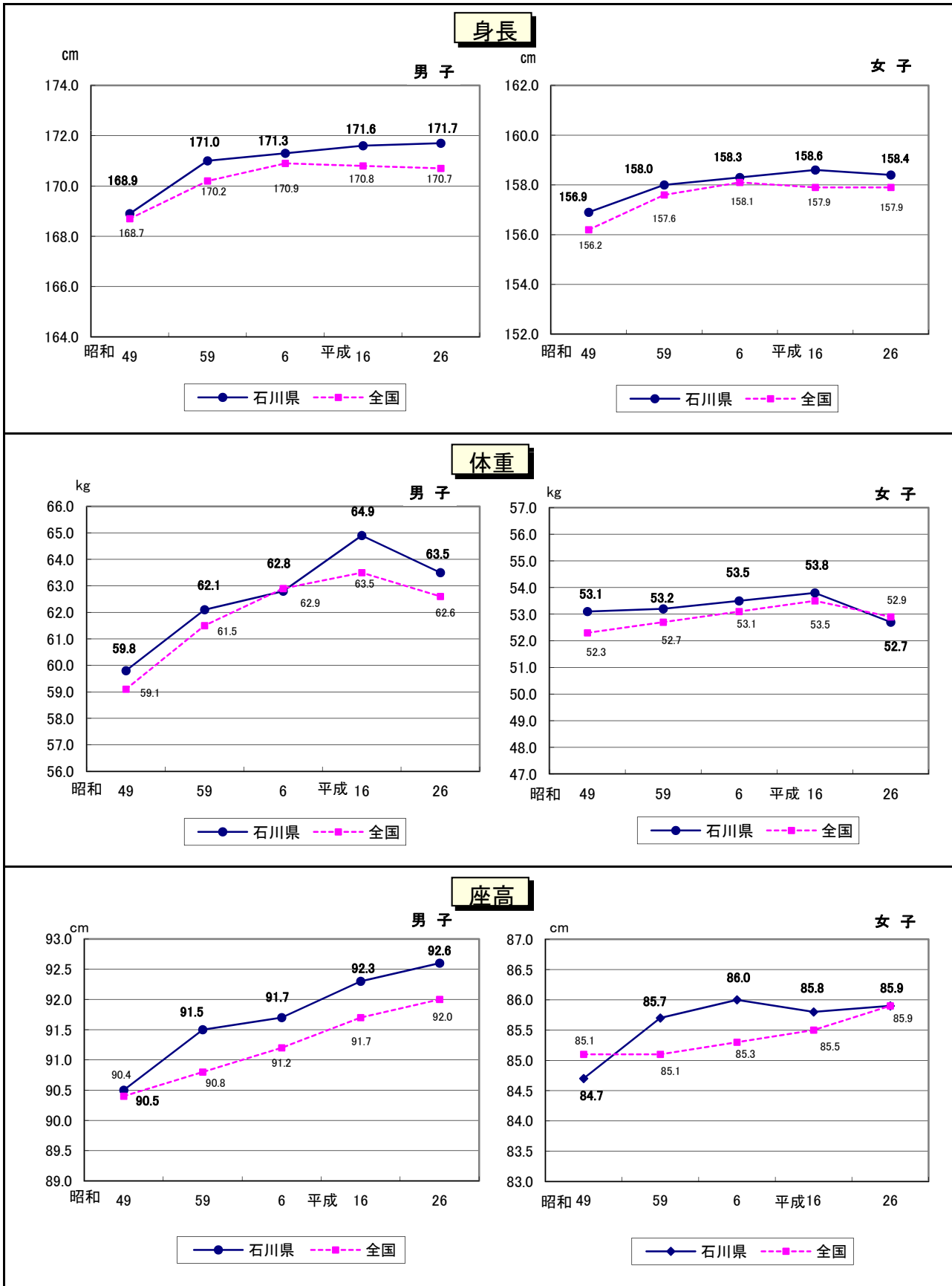


図8 都道府県別17歳の平均身長

